

とにかく よく咲く アガスタチピンクパール

*Agastache
Pink Pearl*

アガスタチとは

シソ科で、アガスタケ属。冬は地上部が枯れる、宿根性の多年草。風になびく素朴な風合いが魅力的な植物です。
※アガスターシェという名前で流通している物もあります。

ピンクパールの特徴

淡いピンクの花と、やや濃いローズの蕾、ツートンカラーのような素敵な色合いの花が見事に咲きます。
植物全体を覆うほどたくさんの花が咲き、庭を明るく彩ります。開花期間が長く、春から秋遅くまで咲き続けます。
香りある葉を持つ、丈夫な多年草（宿根草）です。葉をこすると、スッキリとした香りがします。
ナチュラルな雰囲気を持ち可憐で、従来のアガスタチと異なり、コンパクトで花付きが良い品種です。

用途

鉢植え、地植え（庭植え、花壇）、ランドスケープ（景観植物）、寄せ植え、切り花
幅広い楽しみ方ができるのも魅力の一つです。

植え付け・用土

Point!
花や蕾は切り取らずにそのまま植え付けてください。花は咲きながら分枝して株が広がります。花や蕾を切ってしまうと次の花が咲くまでに時間がかかってしまいます。



✓ 地植え

→ 株間 30~40cm

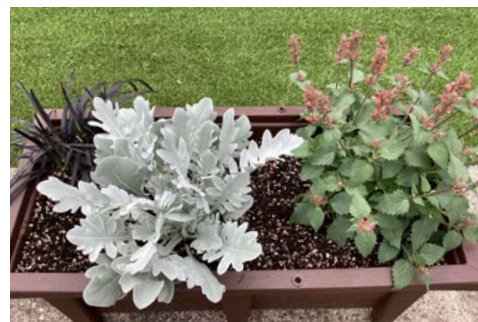
地植えは、日当たりがよく、水はけのよい場所へ植えましょう。緩効性肥料を入れて耕してから植えれば、その後の追肥は必要ありません。



✓ 単品鉢植え

→ 鉢サイズ：8号鉢位

鉢植えは、排水の良い用土に緩効性肥料を元肥として入れて植え付けてください。



✓ 寄せ植え

→ 株が大きく広がるので大きめな鉢に苗まわりのスペースを広く取って植える



とにかくよく咲くアガスタチピンクパール

置き場所：日当たりと風通しの良い場所に

鉢植えは、日当たりと風通しの良い場所へ置きましょう。日当たりが良い方が花がたくさん咲きます。

耐寒性：強い

冬は地上部が枯れる宿根草です。-10℃位は問題ありません。花が咲き終わったら、初冬に切り戻しをしておくと、翌春に新しい新芽が出てきます。

鉢植えは、冬はできれば霜の当たらない場所へ置いた方がいいでしょう。地上部が枯れても根は生きています。用土全体が凍ったり、完全に乾いてしまうと枯れてしまいますので、表面の用土が乾いたら、軽めに水やりをしましょう。

耐暑性：強い

暑さには強いですが、多湿を嫌うので、長雨や強い雨には注意です。鉢植えは長く強い雨が降る場合には、雨を避けた場所に移動すると、株の傷みが少なくてすみます。

水やり：乾いてからタップリと

鉢植えは、表面の用土が乾いてからタップリと水やりをしましょう。乾燥には強い植物です。

地植えは、活着するまでは乾いたら水やりをした方がよいでしょう。その後は水やりの必要はありませんが、全く雨が降らず乾き過ぎた場合には、水やりをしましょう。

お手入れ：乾燥気味に管理

日当たりと水はけの良い環境を整え、乾燥気味に管理することで元気に育ちます。

鉢植えは、咲き終わった花茎は切り取っておくと、次の花が咲きやすくなります。

地植えは、夏前に一度、花が終わった花茎を切り取っておくとよいでしょう。

開花期：初夏～秋（関東基準）

初夏から夏、秋遅くまで長い期間咲き続けます。

草丈、株張り

花が咲く前の草丈は20～30cmですが、花が咲くと40～50cm位の高さになります。

分枝もよく、株張りも30～40cm位まで広がります。

肥料

鉢植えは、元肥を入れて植え付け、1ヶ月を過ぎたら、開花中は月一回程度の追肥を少々与えましょう。多過ぎると徒長になります。なお、夏の追肥は（7月～9月上旬）はしない方がいいでしょう。

地植えは、最初に元肥を入れて植え付ければ、その後は基本要りませんが、花付きが悪い場合には春と初秋に株元に追肥をするとよいでしょう。